

高知憲法速報

207 2009.8.17

発行:高知憲法会議事務局 088-872-3406

編集人 事務局 徳弘嘉孝

8・15 戦争を語りつぐつどい 150人参加

今年の集いは8月15日午後、高新文化ホールで開き、150人が参加しました。実行団体となった16団体を代表して県平和委員会の徳弘理事長が開会の挨拶。県労連婦人部の畑山佳代さんが「一本の鉛筆」を熱唱しました。高知センター合唱団が「サトウキビ畑」「信じる」など3曲を合唱しました。

高知県埋蔵文化財センターの出原恵三さんが「向山など戦争遺跡から見える高知平野の太平洋戦争」と題して記念講演を行いました。講演要旨次の通り。

戦争体験者がだんだん少なくなり、重要な文書資料は終戦の時にほとんど焼却されて、いま大地に残された戦争の遺跡や遺物が大事になっている。これらは目に見える形で事実を伝える大事な資料として、記録し保存していかなければならない。戦争遺跡は1982年頃に戦跡考古学が提唱され、1995年文化財指定基準の改正、原爆ドームの国史跡指定・世界遺産登録から変化が起きてきた。南国市前浜掩体は2006年2月に南国市史跡となった。2009年8月現在、指定・登録された戦争遺跡は全国で162件ある。高知県では朝倉の44連隊関連、宿毛の海軍航空隊跡、高知海軍航空隊跡、浦戸海軍航空隊跡、本土決戦陣地、防空監視所、特攻基地など県下各地にあるが、整備されていないところも多い。埋蔵文化財センターが高速道路工事や波介川導流事業などに関わって発掘調査した事例が、土佐市の人麻呂様城塹壕や新居城塹壕などあり、向山遺跡も南国高知自動車道路建設に関わる埋蔵文化財発掘調査として2008年9月から2009年1月まで行われたものである。

尾根部に砲兵隊の観測所と見られる土坑と交通壕があり、山の中腹を南北に貫く85メートルのトンネルと作戦室として準備されたと思われる部屋の跡がある。ここからは鋸や釘、罫子ソケットなども出土した。北斜面には多くの土坑、横穴、交通壕が掘られ、大砲置場、砲弾薬置場として作られたと考えられる。

1944年6月マリアナ沖海戦での敗北、7月サイパン島守備隊全滅で米軍はマリアナに巨大航空基地を建設しB29を配備、北海道を除く全土が爆撃圏内に入った。1944年10月レイテ沖海戦で連合艦隊は事実上壊滅、艦載機やB29による大規模空襲が始まった。1945年4月沖縄戦開始。4月大本营は「決号作戦準備要綱」を決定した。高知県には第15方面隊・第55軍として、土佐山田町新改に司令部を置く四国防衛軍(偕部隊)が配備された。6月末以降には九州南部、北部、四国南部に上陸する可能性があるとして、約7万人の兵力を高知平野に展開、特攻基地も数多くつくられた。歩兵大隊の密度や重機関銃の密度は最大のものだった。「幻の本土決戦」と言われるが、8月13日完全武装の出撃命令がでて、住民が避難する事態もあった。終戦の時期が延びれば悲惨な事態が出現したであろう。向山の陣地も手掘りのものであり、艦砲射撃が行われたなら木端微塵となる。強力な米軍の攻撃に無力であることも判っていながらそれでも命がけで陣地を作り続けねばならなかった。それは日本近代史の終着点の一つでもある。

南国市在住の中村さんが「高知海軍航空隊用地を作るため、6回に分けて用地を一方向的に接収。小学校や役場のあった三島村がなくなり、室岡山も無くなった。戦後空港の滑走路を延長するには30年かかったがこれは憲法に守られたからだ」と発言しました。

女性9条の会の松繁さんが戦時下「毒ガス工場」の島、竹原市大久野島について報告。軍事機密として地図の上からも消されていた島に貯蔵庫跡や工場跡などが残っていること。中国で6000回以上使われ、9万人以上を殺し、残った毒ガスは土佐沖にも海洋投棄されたこと。島はリゾート地になっているが、今も毒ガスが発見されていることなどを語りました。

自由民権記念館友の会の窪田さんは、今年「無名戦士合葬者」に登録された高橋繁義さんのことを語りました。44連隊の中国出兵に反対して榎村浩が原稿を書き、毛利孟夫と山崎小糸が決死のビラ配りを行った高知連隊でそのビラを読み、ずっとそのことを考えてきた人がいたのでした。みんなが騙されない国民になるうと呼び掛けました。

自治労連青年部の溝渕さんは自治労連・沖縄プロジェクトに1200人が参加し学んだ教訓を報告しました。退婦教の北岡さんが閉会挨拶を行いました。